

情報化オフィスにおける文書インタフェース技術

岡田康裕*
 亀代泰三*
 平野 敬*

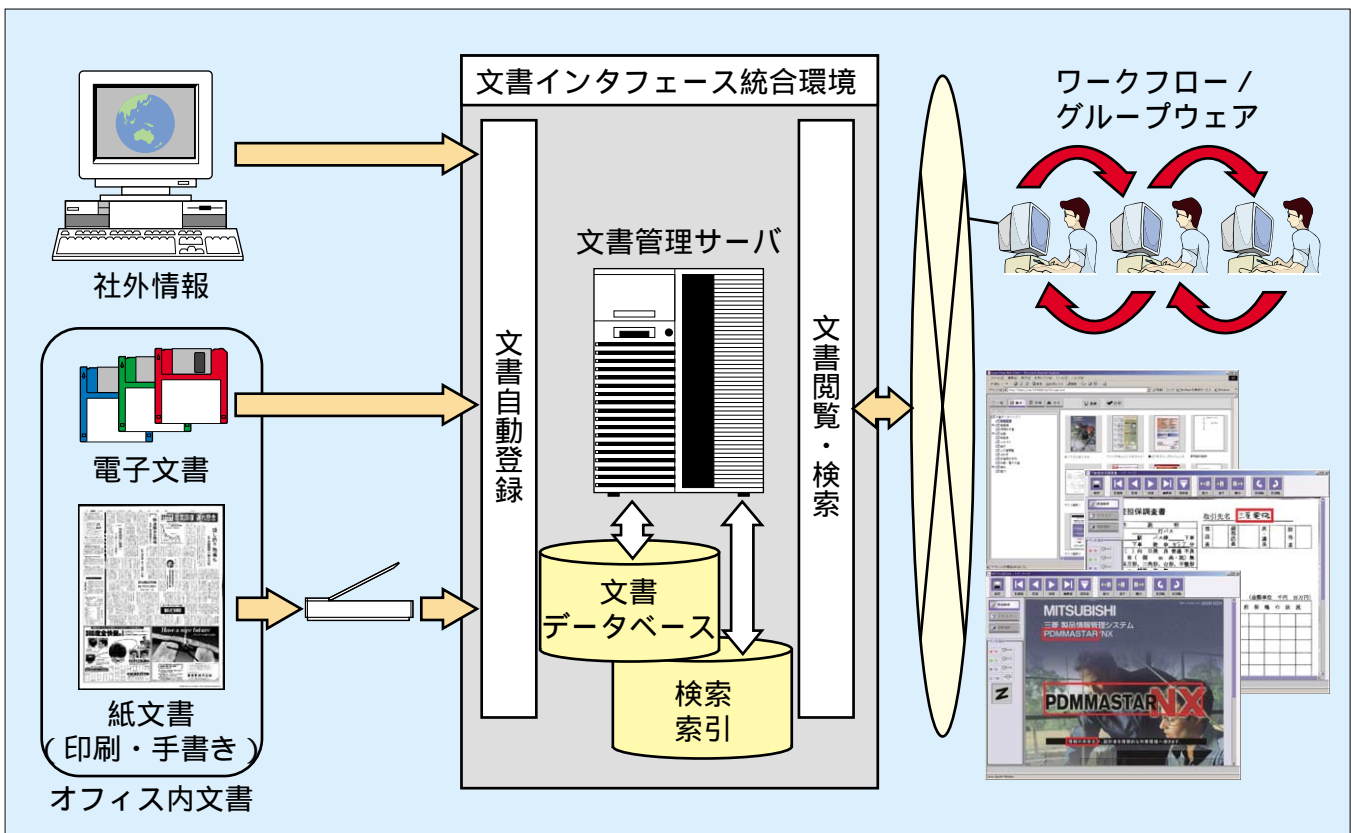
要 旨

過去から現在に至るまで、オフィスにおける人と人、人と組織間のコミュニケーション手段は、文書による情報伝達がその主役を担っている。文書はオフィスに欠くことができない存在であり、文書を用いたインタフェースはオフィスにおけるヒューマンインタフェースの一部であるとも言える。近年では、社内情報の活用と業務効率化のためにグループウェア、ワークフローシステムなどの導入が進み、文書の電子化・共有化が行われるようになった。一方で、依然として紙文書による情報流通も避けられず、情報化オフィスでは様々な種類・形式の文書が散在している。これらの文書資源を有効活用するためには、各所に散在する紙文書や各種電子文書をシームレスに管理し共有する文書インタフェース技術が必要となる。

このニーズにこたえるため、三菱電機では、電子文書・

紙文書双方に対して自動的に検索索引を作成する文書自動登録技術と、一覧性の確保、原文に忠実な文書閲覧、視認性の高い検索結果表示を実現する文書閲覧・検索技術を開発している。特に紙文書の登録・検索においては、当社独自の形状特徴併用検索方式によって紙文書をスキャナ入力するだけで文書イメージに対して高精度に全文検索することができる。

上記技術は、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)の図面文書管理システム“FINALFILING”と、三菱電機アプリケーションサービス(株)がASP事業としてサービス提供している文書図面管理サービスに適用されている。今後は、文書情報を有効活用し企業活動の原点である新たな価値創出に資する文書情報活用技術を開発していく予定である。



文書インタフェース統合環境を用いたオフィス文書の電子化・共有化

オフィスにおける人と人、人と組織間の重要なコミュニケーション手段である文書を用いたインタフェースを円滑に行うための文書インタフェース統合環境を実現した。電子文書・紙文書双方に対して自動的に検索索引を作成する文書自動登録技術により、オフィスに散在する文書を社外情報とともに文書管理サーバに登録する。文書の閲覧・検索は、一覧性の確保、原文に忠実な文書閲覧、視認性の高い検索結果表示を実現した。既存のワークフローとグループウェアとの協調動作により、オフィス内の文書資源の有効活用を図ることができる。